いわき民報
發行所 平市田町48 電381.176 1222 いわき民報社
編集兼印刷發行人 田原登

追豫二百九十七萬圓
きょう定例平市會に附議

平市の定例市會は二十八日午後一時より公會堂日本間に開き二百九十七万二千九百五十七円の追加更生豫算案並に水道使用條令一部の改正を上程委員會に附託して一日休憩引きつづき本會議を招集して議決することになつている今度の追加更正豫算は國會で中央の方針が決るまではなるべく現狀維持のままで置き來る十二月の市會で根本的な調整をするため大して重要なものもなく款項別に見ると△役所費四六、四四〇円△警察消防費一三〇、六一四円（消防署長の月俸一〇、二九円も含む）△土木費七四三、〇〇〇円（鎌田橋修繕九五、〇〇〇円、白銀町道路修繕四七〇、〇〇〇円、新田町道路修繕九六、〇〇〇円、六人町道路改修八二、〇〇〇円）△教育費二二七、〇四〇円△社會及勞働施設費四九、〇〇〇円（特別民生委員月俸三、五〇〇円を含む）△保健衛生費三〇、〇〇〇円△産業經濟費二二三、五〇〇円（中醫地內災害農道復舊費五二五、〇〇〇円、同排水路復舊費二六七、五〇〇円、商工會議所交付金二〇〇、〇〇〇円、六、七丁目街燈二十一燈増設交付金一〇〇、〇〇〇円、縣度量衡協議會負擔金一、〇〇〇円）△都市計畫事業費四二〇、〇〇〇円△選擧費三二、三六三円△諸支出金一〇〇、〇〇〇円

なお水道使用料の條例一部改正は一カ月分宛徴收しようとするものである

教育費確保の運動を全縣下の問題に擴大
教育振興大會で決議

平市長、全議會議長、全PTA、石城町村長會、全町村議長會、全連合PTA共催の教育振興大會は二十七日午前十時半から平一小講堂に市郡民三百名の參會を得て盛大に行われた

先ず阿部平市助役の開會の挨拶があつて町村長會長代理草野、小川村長が議長となり町村長會橋本事務局長の經過報告を終つて後協議に入り決議文を作成することが提案され樫村町村議會議長以下五名が起草委員となつて敎育の充實振興は文化國家建設の礎であるのに第五國會において敎育豫算の大削減をみたことは六三制敎育完全實施のために憂慮にたえないとして△學校建築豫算の追加計上△敎育豫算の追加計上△敎員の定數確保を決議し、實行委員として左の十氏を定め今後における一切の運動を依託した

△樋口町村長會長、神谷副會長、橋本事務局長、樫村議會議長、大河原好間議會議長、鈴木平市長、金古市會議長大谷平PTA會長、成瀬植田PTA會長、坂本草野村長

實行委員には運動費として二万五千円を據出することを決定し、これを平市PTA關係三割、郡連合PTA關係二割町村長關係五割と分擔して今後の運動に備えることになつた、なお陳情の期日については近く縣下の各團体に呼びかけて縣大會を開いてから、その代表として上京するという意こうである

又神谷村長からこうした會合は今回だけでなく年中行事として開催してゆきたいという動議が提出され万場一致でこれに贊成、最後に木村敎育委員、稲崎地方事務所長、菱沼縣敎委出張所長、敎組馬場平支部長の祝辭があつて閉會した

故鈴木先生の建碑
渡邊村で盛大に除幕式擧行

渡邊村小學校校長として十五年間敎育に當られた故鈴木道治先生の彰德碑はかねて同窓會の人々の手で（工費八万円）進められていたが、立派に完成したので先生の十七年忌に當る廿六日同村天神前において二百八十名集り除幕式を盛大に擧行した

てん額は星一氏の左の手で書いて貰つたものである、故先生は明治三十四年から大正三年まで雨の日も風の日も磐崎村の居宅から一里余の道を通われ育英敎化に活動しその功績は大きく、後勇退して郡會議員となり副議長をつとめ、又縣農會議員として縣農政にも貢獻した人であつた

名木展示會
植田で開催

平、植田兩營林署では二十五日植田營林署土場に軍室、茶室、床柱等の名木展示會を開き業者間に人氣を呼び展示會はそのまゝ名木セリ市となつた出品點數は一般からはけやき板だけであつたが官側からは檜の輪をつくつた柱床など五十點が出品され縱一米半横一米厚さ十五センチのけやき板が四千円、厚さ三センチ程の全様大きさの簞笥前板が二千五百円から三百五十円程度だつた

これら名木價格は統制外のものだけに時と處によつて變動するものだが大体この邊が適當だろうとは林務職員の話で當日の展示會には原の町、富岡地區の業者間には大もてであつた

四名歸る

ソ連地區引揚第五船團第二船遠州丸の本郡關係者左の四名は二十七日午後五時三十三分平着の指定列車で無事歸郷した

蛭田一三（川部）片寄孝一（高久）上遠野榮雄（上遠野）國島三郎（勿來）

礦害復舊措置法案に反對
石川會長らが上京運動中

東部石炭協會では二十二日評議員懇談會を開き、十月中旬ころ閣議で決定されたと傳えられる「特別鑛害復舊臨時措置法案」に就き協議檢討したこの法案による屯當り二十円の復舊費を出すということは同協會の運營經費を屯當り四円十錢と從來の半分に削減した事情からみても到底納得出來ないとし「極秘裡にこの樣な法案を決めたことには絶對反對だ」と去る二十日、岩川會長は上京、總理大臣、宮本大藏省、資源廳、兩參衆議院商工常任委員長、民自黨政務調査會長、各政黨に陳情する一方、長岡專務理事も翌二十一日上京關係方面に目下強力な陳情中運動を展開中である

宅地家屋賣買物多　鶴田屋商會　平市三丁目

正直なヨイ子
第二小校に咲いた佳話

平第二小學校兒童たちの生んだ佳話―去る十八日夕刻五年生三井征男、新妻縣一の兩君は平市五丁目金光堂前で風呂歸りの途中五千二百円入りの包ものを發見、早速驛前交番に屆出たが、市內新川町學生國井秀雄君の落しものとわかり、同校でもその美擧を表彰したが、今度は二十五日四年生大谷浩君は下校途中三百円を拾得平自治署に屆出た

國語研究會
二十九日江名で

敎委石城出張所管內二區各小學校の國語研究會は二十九日午前九時から江名第二小校に國語擔任の敎師が集つて開く

機運丸救助さる
非常サイレンに協力要望

小名濱海上保安署では二十六日午後五時二十分ごろ小名濱町白井三郎氏所有機運丸（九、四〇トン）が機械に故障を起し十三名を乘せたまま植田町小名濱沖に漂流中との知らせを受けたので同署配屬のうずらが救助に向い午後九時四十分ごろ同港へ曳航して來たがこの際うずらは上陸中の乘組員を招集するため非常サイレンを吹鳴したので町民は吃驚一時は大騒ぎを演じた、右について遠山海上保安署長は語る

突然の非常サイレンで町民の皆さんも驚いたことと思うが緊急の場合はこれから一寸あります、海の災害の場合は『なあんだうずらのサイレンか』などと馬鹿にしたロを開かずあくまでも海上保安に町民の協力を望みます

木炭不足せず
卸賣業者が太鼓判

今冬の木炭對策を樹立しようと平市では二十七日午後三時より市長室に市內木炭卸業者を集めて協議した結果、業者側は年內に四萬俵の木炭を確保することになつており今のところ今年の冬は木炭不足を來すようなことはないとして樂觀しており一カ月一世帶三俵宛は配給出來得る考であると旨嬉しい見透しであることが立證された、なおこの協議會では代金の回收の惡い小賣登錄店舖は資金面で卸業者が行詰る恐れがあるのでその場合は優良、小賣登錄店舖にどんどん代行させることについて市側も諒解しまた今後の木炭入荷に隘路が出來た場合は市が積極的に對策をたてることにして閉會した

リコール署
名簿の審査

リコール署名簿の審査をする小名濱町選擧管理委員會は二十七日午後一時より開いたが終了せず二十八日は午前九時から開き更に二十九日午前中一杯はかかる見込みでこの結果によりリコール署名簿の成否が決ることになつた

賃金專委會

連盟對炭勞との賃金交渉は賃金問題の基礎については專門委員會で檢討することになり第一回の決裂について二十七日午後一時から平市勞働會館に第二回目の專門委員會を開き、交渉したが纏らず廿八日午前十時半から勞働會館で續開

炭車に觸れ
生命危篤

二十八日午前五時ごろ、磐崎抗西入斜坑本線で採炭夫円谷正男さん（四五）は作業終了後本線を歩行中、下から上つて來た炭車にふれ重傷を負い生命危篤

漂流中のマグロ船
豊間町海岸に坐礁

千葉縣の舘山市金光良郎さん所有の鮪船金光丸（一八トン）は二十七日鮪五十貫を積んで宮城縣金華山沖を出發小名濱港に入港する豫定であつたが二十八日午前二時頃機關に故障を起して漂流豊間町沼ノ內海岸の淺瀨に乘上げ坐礁した、なお船長の遠藤乙吉さんほか十五名の乘組員は無事救助された

三名で密漁
ダイナマイトで

上小川村上小川滝工炭礦採炭夫赤賀德男（三五）は本年四月頃から毎月ダイナマイトを四、五本宛ごまかし坑內に隱していたが八月末に到つてやつと十五本たまつたのでその中八本を運び出し九月上旬頃同字の日應草野長治（二九）及び農業鈴木國治（六四）と一緒に夏井川に魚採りに行つたことが發覺二十七日夜平地區署に捕まつた

水素工場視察

平勞基署では既報の如く勞働安全衞生規則施行滿二周年記念行事を繰り擴げることになつたがその一つとして七日小名濱日本水素の工場見學終つて勞働安全衞生關係の懇談會を開くことになつた

天氣予報　十八日

【今晩】西寄りの風やや強く曇のち晴
【明日】北西の風秋晴の良い天氣、今、明日とも相當時化るから漁船は注意を要すなお午前十一時發風浪注意報解除の氣象特報發令

MAY
メイ美容室
平市 電 甲六八

琺譽妙良大姉御葬送の際は御多忙中遠路態々御會葬下され御丁重なる御香奠を賜り誠に有難うございました早速拜趨の上御禮申述ぶべき處略儀ながら紙上を以て御禮申上げます
昭和二十四年十月二十八日
平市堂前四
喪主 稲島昌
兄 稲島正
外親戚一同

タイヤ、チユーブの豫約は十月二十五日より十一月七日迄です
優秀な品を自由に選擇出來ます
フタバ商會
平市新川町郵便局前

東都より優秀料理人招聘
北京料理
華香亭　近日復活致します
昔におとらぬ迅速な出前御引立を御願い致します
◎求む 見習い出前 高給優遇
平市銀座通り 電702番

―開店披露―
意氣な江戸家造りで
江戸前料理
樂しく 氣輕く 安値で サービスの店
お酒と御料理 燕樂

牛 鳥 酒 すき燒
銀なべ
すき燒の眞價は何といつても火力に依りますが今度文化的コンロを備付て皆樣のお越を御待して居ます
平市田町 一の井 電二一〇九番

相變らず原始的ですが營業は相變らず良心的です。御商談、御會食に簡易な座敷を新設しました。休憩室同樣御利用下さい
放出 コーヒー ココア 指定賣店
平会館 三丁目 電六二四

金物一般
マルヘイ
平市銀座電一一四

おどる座 登柳會
合同公演會
11月2日 開演 午後3時 終演 午後9時
會場 平一小講堂　後援 平市レクリ協會

番組
第一部 ―おどる座―
清元 四季三番草
清元 保名
常磐津 戻駕
常磐津 釣女

第二部 ―登柳會―
長唄 菊づくし
長唄 羽根の禿
長唄 藤娘
長唄 手習子
長唄 五郎時致
常磐津 角兵衛
常磐津 三つ面子守
清元 鞍馬獅子
常磐津 お光狂亂
長唄 鞍馬山
清元 文屋

第三部 ―おどる座―
清元 四季三番草
清元 保名
常磐津 釣女
常磐津 戻駕

○長唄 杵屋十茂代社中○清元 清元松之助社中○常磐津 常磐津連中○鳴物 望月左三郎社中○大道具 中島湖州○小道具 荒澤貞行○衣裳 山野衣裳部○かつら まつもと○照明 瀧川電氣部

新漁區とマグロ

吉屋貞一

今回許可された太平洋上の約八十六萬四千平方マイルにわたる新漁場は秋から冬にかけて、カツオ、マグロ、サメの類が期待されるけれども、相當の準備と考察を要することは前に書いたが、既に日營漁業とか太洋漁業など數會社は多年の實驗に適應して、特に大型船を用意している有樣である。更に南方の海ならば一年を通じて、これ等の漁獲を見る可能性があつても、新漁區は漁期が冬に限られているので、期間を巧妙に利用して、收獲を擧げなければならぬ。先づ百三十トン級から以上の漁船の裝備を充實させるばかりで無く、現在にかてさえ、カツオ、マグロ漁業に必要な綿糸は五十パーセント、燃料は七十パーセントの供給であれば、その資材の配給を如何に工夫するかも重要な問題であろう。

いわきの濱に大体百トン以上の漁船が三十隻ばかりあると思うが、その中の何隻が出漁するか、從來輸出向きのビンチョウはおもに春から夏にかけて近海で獲れるもので本年も清水港の水揚げ量は二十二萬六千餘貫を算したそうである。魚肉の品質も調査さるべきで、罐詰用とせばサラダの入手なども簡單でないから近くの大工場と協調して實績をあげるのが今のところ得策であるまいか。然し罐詰工場は内地向きにも、七濱の何處かえ一カ所新式の計畫が欲しいと思う。この漁區はカツオは有望でないから、寧ろサメでも獲れたら肝油の材料にしたらどうか。サメは大ものがいるらしい。日本の漁業も沿岸式から遠洋式に移行すると考えるから、築港その他の建設にも其用意があつてよかろう。今度の擴張によつてマグロ類だけで二千二百萬以上が增産が出來るほど過適しているそうであるが、結果は未知數として努力すべきである

マグロは我國で古來から漁獲されて、古事記や萬葉集にも書きしるされている。昔は一般にマグロをシビと呼んで今でも關西方面ではそう呼稱されている。古代は沿岸に群集したらしく、主としてモリで突いたようで、後になつてシビ網という言葉が文書の中に發見されるけれども、これは濱近くに來襲したマグロを獲るための建切網の一種と察せられる。嘉永年間に陸前牡鹿半島の一角で大謀網型の漁業法が創説され、それからマグロ大敷網は肥前の五島が考案されたそうである。マグロの遠洋漁業が起り始めたのは明治四十年以降であるが、本縣でも明治十六七年頃からマグロ流網が宮城縣から移入されたと聞いている。マグロも明治十年頃は陸地から十マイル―十五マイルのところで獲つたものであるが、遂に遠洋漁業に從屬する狀況を呈したのである。マグロの獲れだしたのは關東以ほくの沿岸に始まるらしく、金華山沖が本場とされて全國的に有名になつたわけで味も、この邊にいるものが賞味される價値があると思う。

〃蔭に動く二人の男〃

リコールの仲裁遂に放棄

本社の輿論調査によれば小名濱町の四町議リコール戰は正に迫仲の狀況にあり豫斷ゆるさざるものがある、特にこのリコール戰の可否によつて各町村に及ぼす影響は大きいものがあると見てる向があるので一層注視される、ところでこのリコール戰と共に『蔭の聲』とも云うべき兩者の中に立つて仲裁役を果したが遂にうまく行かず中途で放棄した〃蔭に動く二人の男〃があつた、との兩氏の意見を聞くとリコールのいきさつが一層はつきりしているように思える（伊藤記者）

○…蔭に動いた二人の男とは革新民主同盟側の黒幕の一人だと噂のある伊藤軍之助氏で他は四町議の味方だと噂されている藤田瑞穗氏である（藤田氏自身は双方何れにも味方していないと云つているが）

○…先ず話の順序は藤田氏の方から始まる、町民大會の三日前革民同盟の小野幸次郎君が藤田氏をたずねて『二十八日に町民大會をやるから協力して呉れ』と申込んだ、藤田氏は『リコールするだけのキメ手があるか』と質したのに對し小野君は『ある』と斷言した、然し藤田氏は相當のキメ手がない限り動くべきでないとして靜觀の態度をとつており町民大會の當日も議長に推されながらこれを拒否した

○…次は伊藤軍之助氏の動きである、彼はリコールに大賛成であつたが唯四町議を一擧に葬ることは町會にとつて大きな損失であり特に無難な鈴木正氏だけでも殘したいと考えていた、伊藤氏の話によると革民同盟の基本方針は小野（務）、立花の兩氏をリコールするために町民大會に臨むわけであつたと云う、然し町民大會の結果は四町議のリコールになつて仕舞つた、革民同盟では二人分のキメ手を用意していたが四人のリコールが成立した形となつたと云うのである、彼はこの四人のうち二人は殘さないと町會が變んなものになると云う持論から『二町議の救濟』について藤田氏のところへ持込んで來た

○…これに對し藤田氏は有能な小野、立花兩町議のうち何れか一名を助けその身代りとして別に殘り二名の中から出せば革民同盟側の面子も立つからリコールを中止しろと堤案した、その席上には小野（作）鈴木（治）の兩町議も介在していた、伊藤氏は藤田氏の案を小野（幸）君のところへ早速示して意見を交換したが革民同盟の小野君は『革民同盟以外の者が主催する町民大會を起しその席上で承認を得ればよいだろう』と云う返答をして〃二人説〃はどうやら實現の曙光を見出せるようになつた

○…藤田氏は伊藤氏からの返事により直ちに小野（作）議員に話し同町議から區長會に提案する手筈であつたが藤田氏はリコール署名簿を監理委員會に提出後はそうした工作は出來ないと云う法規があるのでそのまゝにして仕舞つたと云う、勿論藤田氏はキメ手がないから四人は白だと云い伊藤氏は全部黒（卽ち惡い人達だ）と云う前提の下に動いた工作であつた

○…こうしたカラクリの中で革民同盟派の伊藤氏は四人を葬むることは大局的にまずい方法であり最初からの豫定通り小野、立花の線で二名のリコールを推進しろと云つてるが藤田氏の主張ではこの二人のうち一人を助け別に身代りを出したいと云うまゝこの話も立消えになつたが二、三日前の高木館で開いた何んとか云う大會の席上で小野幸次郎君が『彼等はだきよう工作をして來た』と發言したのもこの事で果してこの兩氏にそのカラクリを強行に實行出來得るものがあつたかどうかは別として〃馬喰交渉は斯して立消えぬ〃の幕が落ちたわけである

（暴言多謝）

防火用の貯水池

第三小校で新設

火災期に入つて平第三小學校では不慮の災害に備え校庭西側に貯水池を設けることになり、二十六日PTAの協力的奉仕によつて約百名の父兄が長さ五十五米、幅一米、深さ〇、五五米（七十六立方米）の貯水池掘りの仕事を始め殘りの仕事は十一月一日五六年生のPTAの人達が實施することになつており、資金もないのでコンクリートにはしないが市内小中學校には未だ貯水池の設備のない折柄平消防署では防火、避難對策では市内一との折紙をつけている、なお十一月十一日には同貯水池も完成するので消防自動車を招き防火、避難訓練を行うことになつている

連合音樂會

五日第一小校で開催

十一月五日市内中小學校では第一小學校講堂に『連合音樂祭』を擧行する、この催は毎年十一月三日文化の日をえらんで行う譯であつたが、學校の都合で五日に決め各PTAの人達の參集を求め各學年から一人づつ出演し合唱、獨唱ピアノ合奏等を行うが今年はこれで四回目である、從來遊戲も行つたが今年からは音樂一本やりの音樂鑑賞會といつたものにし第二小學校二年生森江恕子、中村恕子さんたちによるピアノ連彈等もあり興味を持たれている

傷害致死事件の證固調べ

江名町折戸漁夫長谷川智英（二八）同渡邊藏人（二五）にかゝる傷害致死、並に傷害事件の第一回公判は二十六日地裁平支部に開廷、事件當時の證固調べを行つた、なお次回は事件發生地の現場檢證を行うことになつているが日取りは未定

サンマ續々水揚げ

小名濱町のサンマ漁船はその後も續々と小名濱無電局に朗報を傳えて來ているが二十五日第十三丸高丸、第十四丸高丸が各五、六千貫づつを積んで歸港、翌二十六日には三社丸一万貫、八幡丸四千貫をいづれも小名濱港に水揚げした

商賣資金に窮し詐欺を働く

植田町滋川機械部品商吉田金次郎（二九）は昨年三月頃官吏を止めて現商賣にたずさわるようになつたが本年初め頃から資本に窮したので一策を構じて四月頃近く無盡の金が下りるからと僞つて同町合町のいた板金工阿部正三さんから二回に亘り四万円を借り受けこれを詐取したほか五、六件總額一万円に及ぶ詐欺を働いたことが判り二十六日植田町署に檢擧され近く書類を送檢する

強姦事件で證人を訊問

去る八月頃新制中學校三年生某女（一六）を脅し再度にわたり強姦し更に中旬頃人妻にも手をかけ強姦した双葉郡上岡上村上手岡農荒喜六（二〇）にかかる強姦事件は二十六日午前十時から地裁平支部に志村、豬狩、安藤三判事、宮後檢事係り秋元辯護人立合で開廷、被害者兩名の證人調べを行つたが被告荒川は『被害者承諾の上である』と云つているのに對し被害者兩名は『強姦されたのだ』と證言を行い正午閉廷、次回は來月九日

圖書館連絡協議會

第一回全國圖書館連絡協議會は十一月九日から三日間東京に開かれるが、縣學校圖書館指定研究學校の平第三小學校から新関校長桑谷教務主任吉田教諭らが出席し今後の運營方法に就き檢討する

土工の盜み

內郷町大字宮字瀧土工齋藤某は去る十日午後三時頃好間村大字上好間探炭夫槇蕪さん（二四）方に空巣に入り衣類五點時價三千八百円相當を盜んだことが平市内の某古物商に盜品を賣りに來たことから足がつき二十五日平市署に捕まり二十七日送檢された、なお同人は取調べの結果九月中三回に亘り好間村大字上好間で空巣に入り衣類四點時價二千六百円相當を盜んだことも發覺した

いわき俳壇

玉水吟社句會

名月や前ゆくやせし影は巳れ
夕霧をふるわして君の足音ぞ
シグナルの音寂しくも月燈める　紫水
月のもと雲湧きゆるく梢かな
萩の徑母と行きしに袂ぬれ
名月や聖堂高く街の上に
絕ち切れぬ想いを月とえんにいる　砂丘
秋雨や悲哀に似たるリズムして　松浦
道道の萩も盛りや萩の寺
日日たのし日日忙しく秋の月　みづほ女
身に泌みぬ物賣の聲遠聞きに
月を愛で酒を愛でつゝ閑に居る　啞雀
たたづめばこぼるゝ實もあり花野かな
身に泌みぬとゝ殘されて遠灯　喜一
夜もすがら瀬音身に泌む獨居かな　右紅女
浴槽に透く手いとほし月あかり　稚鼓女
秋の花や米價決定氣にしつゝ　起堂

捕物實話　怪盜小松三治（七）

喜久地寒

あたりは眞暗闇である、耳をすまして賊の氣配を窺う庭の北隅から荒い息つきが聞えてくる。

探偵長は匍うようにして、近寄つて行つた。

星明りにすかして見ると賊は植木棚の蔭にかくれているらしい。

うかつに飛びかかれば、彼の持つているドスが物を言うことを知つていたが、木口探偵長は命を捨てても惜しくない賊だと考えた

『野郎―。』

見當つけて、氣合をかけて摑みかかつた木口探偵長の右手は賊の上服を摑んだらしい。賊は立ち上つた。植木鉢がガラガラと音を立てて落ちた。賊の右手にキラリドスが光つた。

だが、木口探偵長と賊の間の植木棚が、二人の行動を妨げていた。

二人が動く度毎、植木鉢がガラガラと落ちて行く。

花見部長が、物音を聞きつけて、馳けつけて來た。

『暗くては危險だ―雨戸を開けて電燈を出してくれ』

花見部長が戸を叩き開け電燈をてらしてくれと叫んだ

笠田刑事も馳けつけて來た。

金張の雨戸がガラ〳〵と開けられて、室内の電燈の光がサッと裏庭を照し出した。

そこには、ドスを逆手に持つて、振り上げている賊と、木口探偵長が植木棚を挾んで睨み台つていた。

『野郎―觀念しろ。』

花見部長笠田刑事の二人がステッキを賊の鼻先に突きつけてヂリ〳〵と詰め寄つて行く

木口探偵長は、高さ三尺の植木棚を、兩手に力を入れて押し倒した、植木棚はガラガラと音を立てゝ賊の兩足を捕えるように横に倒れて行つた

身体の自由を失つた賊は俄かに慌て出して、ドスを狂氣のように振り廻し始めた。

笠田刑事のステッキは賊の小手を强か打つた。

『アイタッ―』

賊の右手のドスがポロリと落ちた

『ソレッ―』

三人の刑事が折り重なつて賊に組付いていつた

『いいえ、勝手にしやがれ』

流石の怪盜も觀念したらしく靜かに繩を打たれていつた。

『田舍刑事に殘念だ―何だえこのお祭騒ぎは火防野郎に火叩き捺すで搔ぎ出しやがつて火事ぢやねえや泥棒樣だ』

警防團員や隣組員に惡口を浴びせながら駐在所に引かれて行つた

仕出し　江戸前　喜壽司　世界館前

眼鏡專門　各眼科醫指定　玉屋　平市二丁目（電910）

クロパン

お茶とお菓子　酒と洋酒　ニュー・ピンク　平市三田小路

プラチナ萬年筆　大好評發賣中　平三丁目岡萬年筆店電399

外科　整形外科　皮膚科　泌尿器科　放射線科　松村亭　松村医院外科　平市南町三二（電一〇七）

良い茶　名山のふもとに藥茶屋榮るなり　茶舖　山登園　平市大町電五三〇

パンと洋菓子　ベーカリー　東京堂　才槻小路（電二〇八）

◆開業◆　外科、泌尿器科　眞木醫院　平市南町一番地（公會堂通り）